



「ツイヤサア!」のかけ声と軽快な拍子木の音

6/20取材

山神祭人間ばん馬の鳥居づくり

鳥居づくりは、木遣り保存会を中心に行われます。鳥居は、伐り出した1本のトド松の樹皮をはぎ、組み立てには釘を使わずに作ります。鉋などの道具を自在に使いこなす姿は、お見事!の一言です。



樹皮を剥がす



松ヤニを布で拭き取り、ふしを取り除く



完成!木遣り保存会ほか関係者の皆さん

しめ縄は昨年地元で採り、乾燥させたスゲを使い、毎年作ります。

鳥居は、1年ごとに丸太の直径を昨年作ったものより約10cm太いものを使用し、大きいサイズを毎年作ります。昨年が一番小

さいサイズを作りました。10年を一区切りとし、あと8年間サイズを大きくしながら作っていきます。8年目には、きれいに並んだ鳥居が会場で見られることでしょう。



人間ばん馬開会式の様子、山の神を祀る

■おけと人間ばん馬の成り立ち

「おけと夏まつり」を運営していた当時の商工会青年部は、「木材のまち置戸の歴史に深くかわる山の仕事と山の神の祭りを夏まつりに取り入れ、後世に伝えることができないか」との思いから、昭和52年に「第1回山神祭バチ曳き合戦」が誕生しました。木材景気は去り、馬や山仕事の道具も車や機械に代わりましたが、人間ばん馬は、山仕事の文化と力強さを祭りというかたちで表現し、おけとの歴史を現在に伝えています。

■山仕事の文化と木遣り保存会

山仕事に携わる者は、毎年12月11日に山の神の宵宮として、森林伐採などの行為に対する許しと安全を祈願していました。11日の夜は、山仕事の男たちがお酒を飲み、飲食店へ繰り出し、時には酔いのまわった男たちが喧嘩になることもあったそうです。翌日の12日は、休業としてい

ました。

伐採した木を搬出できるように揃える作業を木直しといいます。トビなどの道具を巧みに使い、作業中に音頭をとって歌いながら、仲間と息を合わせて丸太を移動させました。

現在、鳥居作りや木直しは、木遣り保存会の皆さんが担っています。山仕事の文化を、いかに引き継いでいくことができるかが、今後の人間ばん馬の課題のひとつといえるかもしれません。

■夏まつりの楽しさ

夏まつり・人間ばん馬の準備や運営には大変な苦勞もありますが、人間ばん馬に出場する選手の必死な姿やゴール後の笑顔は、観客に楽しさと感動を与えます。祭りは、人々の交流や成長を与える大切なものとして、これからも続いていくこと

(参考：置戸町史、第20回・第40回人間ばん馬大会記念誌)

祭

おけとの夏